

病院事業経営評価委員会から 評価意見書が提出されました

5月16日、十和田市病院事業経営評価委員会（委員長 栗谷義樹地方独立行政法人山形県酒田市病院機構理事長）から「十和田市中央病院の経営健全化に係る評価意見書」が提出されました。

この評価意見書は、中央病院が地方公営企業法の全部適用に移行した平成22年7月以降の病院事業経営について審査を行い、その評価結果を取りまとめ、市長へ提言しました。

評価意見書では、病院事業の収益の確保と費用の削減を図るとともに、構造的な問題を解決するために、病院経営を専門とする業者によるコンサルティングの導入を早急に行うべきとしています。

県内外の医療関係者ら4人（栗谷義樹委員長・三浦康久委員・吉田茂昭委員・小久保純一委員）で構成する評価委員会は、平成22年10月に発足し、計4回にわたり中央病院の経営状況などを点検・評価してきました。



評価委員会では活発な質疑応答が行われました

業務構造の見直し、地域医療計画との整合性が健全化の基本方針

評価委員会委員長長の総評では、病院事業の資金不足比率が経営健全化基準以上となったのは、新病院の建設事業の影響が最も大きく、多額の企業債償還と過大なランニングコストが要因であると指摘し、**経営健全化の基本方針**として、
 (1) 急性期病院としての業務構造全般を今一度見直すこと。
 (2) 必要とされる地域の医療、介護、福祉などと全体の地域医療計画が病院経営と適切な整合性を保つこと。



栗谷義樹委員長

今後の取り組みとして、
 (1) 一般会計からの繰り入れについて病院職員はその意味を理解し、その期待に応える意志を改めて自覚すること。
 (2) ワークフローの見直しを院内に委員会などを作って検討すること。
 (3) 経営改革の前提として、医師の考え方や意識を変えていくことが極めて重要であり、特に事業管理者を中心として意識改革を進めること。
 (4) 経営破綻の原因は、一時借入金に頼る経営が挙げられる。一時借入金に頼ることなく医療の質の維持、向上のための投資資金を持つこと。
 (5) 中央病院の地方公営企業法の全部適用を検証するとともに、地方独立行政法人への移行も視野に入れて検討すること。

中央病院の一層の経営努力、市全体で医療政策に取り組む必要がある

全体の評価結果としては、ジェネリック薬品への切り替えや委託経費の削減を評価する一方、人件費の抑制、人材育成、外部コンサルの導入などを今後の課題として挙げています。市が平成22年度末に病院事業会計の約15億5000万円の不良債務を解消したことについては評価するものの、これはあくまでも対症療法であり、病院の構造的な問題が改善されない限り新たな赤字を生むことになり、同じ轍を踏まないよう中央病院の一層の経営努力を望むとともに、医師確保など市全体で医療政策に取り組む必要があるとしています。

今後の課題と展望については、
 (1) 新たな不良債務が再び発生しないように、早急に抜本的な対策を講ずるべく努力しなければならない。
 (2) 病院事業が企業としての意識を有し、5年ごと程度の病院運営計画の策定が義務付けられるべきである。

(3) 医療体制の向上と健全経営の維持に向け、地方独立行政法人への移行を目指したプロジェクトチームを組織化しておくべきである。

(4) 病院職員の給与について既得権という意識を捨て、経営状況に見合ったインセンティブ（※）を含めた独自の給料表を作成することも考慮すべきである。

※インセンティブ：行動などへの刺激、動機。経済用語で「人の意欲を引き出すために外部から与える刺激のこと」

病院事業の構造的な問題解決のために早急にコンサルティングの導入を！

最後に、中央病院は、上十三地域の中核病院として急性期医療を担うとともに、たとえ採算が取れなくても地域にとって必要不可欠な医療を安定的かつ継続的に提供していかねばならない。そのため、病院事業のできる限りの収益の確保と費用の削減を図るとともに、病院事業の構造的な問題を解決するために病院経営を専門とする業者によるコンサルティングの導入を早急に行うべきであるとしています。

※「十和田市中央病院の経営健全化に係る評価意見書」については、市ホームページをご覧ください。

市長から蘆野事業管理者へ 評価意見書が手渡される

評価委員会からの評価意見書の提出を受け、5月18日、小山田市長は蘆野吉和病院事業管理者に意見書を手渡し、「中央病院は市民にとってなくてはならない施設。今後も厳しい状況にあるが、先を見据えた病院運営をしていただきたい」と、一層の経営健全化を促しました。

蘆野事業管理者は、昨年から中期のアクションプラン策定に着手しており、今年中に完成させたいと明らかにするとともに、「病院職員のチームワークはよくなってきた。一丸ということが周囲からでも分かるように仕上げたい」と、職員一丸となって経営健全化に立ち向かう決意を述べました。



蘆野事業管理者へ評価意見書を手渡す小山田市長



週1回、チームのメンバーで病棟を巡回。その結果についてリーダーを中心に協議を行い、今後の指導、改善に生かします。

中央病院のチーム医療！

～ICT（感染抑制チーム）～

問 感染管理専従看護師・藤井 第4回 ☎ 5121（内線7559）

▼職員が正しい方法で感染予防対策がとれるよう、研修会を開いたり、指導を行ったりしています。



いませいかの手洗いは看護師の指導です！

▼手洗いや、咳エチケットなど、職員以外のかたにも感染対策を行ってもらえるよう、ポスターを掲示しています。

▼薬が効きにくい病原体（薬剤耐性菌）が増えるのを防ぐため、感染症を治療する薬（抗生物質）が正しく使われるよう取り組んでいます。

▼今年度からは、周辺の病院と連携し、地域全体で感染が広がらないよう取り組んでいます。

病院を利用する皆様へ

感染予防の基本は手洗いです。院内のさまざまな場所に、誰でも使えるアルコール手指消毒剤を置いてあります。受診や面会の際には、手の消毒をお願いします。



アルコール手指消毒剤